

にいみなんきち

新美南吉 『かにのしょうばい』より

『かにのしょうばい(三)』をよみながら、

は・わ・が・を・お・へ・えのあうじを( )のなか  
にかきましよう。

「じゃ、やくそくだから、( )たしのお父さんとうの毛けもかってくれた  
まえ。」

「お父さんとうというのは、どのくらい大きおおなかたですか。」

「あやまの山やまくらいあるかね。」

蟹かに( )めんくらいおおいました。そんなに大きおおくては、とてもじぶんひ  
とりでは、まにあわぬおもと思いました。

そこで蟹かに( )じぶんの子こどもたち( )みなとこやにしまし  
た。子こどもばかりか、まごもひこも、うまれてくる蟹かに( )みなと  
こやにしました。

それでわたくしたちが道みちばたにみうける、ほんに小ちいさな蟹かにでさえ  
も、ちゃんとはさみ( )もっています。

こたえ

「じゃ、やくそくだから、(わ)たしのお父さんとつの毛けもかってくれたまえ。」

「お父さんとつというのは、どのくらいおお大きなかたですか。」

「あの山やまくらいあるかね。」

蟹かに(は)めんくらいおおいました。そんなに大きくては、とてもじぶんひとりでは、まにあわぬおもと思いました。

そこで蟹かに(は)、じぶんの子こどもたち(を)みなとこやにしました。子どもこばかりか、まごもひこも、うまれてくる蟹かに(は)みなとこやにしました。

それでわたくしたちが道みちばたにみうける、ほんに小ちいさな蟹かにでさえも、ちゃんとはさみ(を)もっています。